



第20回 健康まつりを開催しました

10月20日(日)、第20回健康まつりを開催しました。患者様、地域の皆様、職員あわせて1500名の参加で、秋晴れの中、楽しい一日を過ごすことができました。

当日は、毎年恒例の浅野保育所の園児のみなさんのかわいいお遊戯や、鳴和中学校の皆様の素晴らしい吹奏楽の演奏、また今年初めて木越鼓笛隊の元気な

マーチング演奏も加わり、健康まつりを盛り上げていただきました。

また、新米が当たるお楽しみガラポン抽選に一喜一憂し、スタンプラリーの達成者にはお花のプレゼントもあり、心身共に「健康」を体験できる一日になりました。

第4回 城北病院地域連携 学習交流会を開催しました

10月24日(木)、第4回城北病院地域連携学習交流会を開催しました。

今回は「足の先から見えること」



をテーマに、開催。講義の後は、自分の「足」の観察と爪切りの実践を行いました。

自分の下肢動脈に触れる体験や、足の爪の正しい切り



方を学ぶことで、患者様、利用者様の「足」の観察だけではなく、自分の「足」を知る機会にもなり、日頃から「足」のケアが重要であることを実感できる場となりました。

私たちが
めざすもの

医療福祉宣言
城北病院 城北診療所 2019

私たちは、ヘルスプロモーションホスピタルとして地域の皆様、他の病院や施設と共同してネットワークをつくり、無差別・平等の地域包括ケアを実践し、平和で安心して住み続けられるまちづくりに努めます。

発行 城北病院 医療福祉連携相談室

〒920-8616 金沢市京町 20-3
TEL 076-251-6111 FAX 076-208-5231
http://johoku-hosp.com
E-mail renkeisitu@johoku.jp



医療福祉連携相談室だより

JO-HOKU No. 55

2019.11.25 autumn



城北病院 副院長
三上和久

変化し続けていく病院の姿

平成時代の約30年間はバブル景気から始まり、経済状況や社会状況などが大きく変化した、まさに激動の時代だったと思います。世の中の状況が変われば医療制度も変化していくもので、平成12年の介護保険制度、平成18年の地域包括ケアシステム、平成22年の社会保障・税一体改革、平成27年の地域医療構想など、大きな医療改革が次々となされてきました。

例えば創業何百年という酒造や老舗旅館であれば、昔と同じことを続けることによって伝統を受け継いでいくものですが、私たち病院や診療所などの医療機関の場合はずっと同じスタイルで診療を続けていくことは相当困難ですし、かえって弊害が出てくる可能性があると思います。その時々医療制度や世の中の流れにあわせて、その都度診療内容などのスタイルを変化させていくことが求められています。

今まで城北病院では、一般急性期病棟、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟と4つの病棟をあわせ持っていました。新病院建設を契機として、これからの時代の変化、患者さんや地域の方からの要望にあわせていくために、令和時代に入ってからハイケアユニット(HCU)、緩和ケア病棟を新設して、計6種類の病棟を持つ病院に変化しました。

長い年月をかけて少しずつ変化してきた城北病院ですが、変化する目的が制度に対応するためだけになってはいけません。一番大切なことは、患者さんや地域の方が当院にどのような医療を求めているのかをしっかりと把握して、その要望に合わせて変化し続けていくことが重要だと思われます。

今後は多死社会から人口減、超高齢化の世の中となり、令和の時代は平成を超える激変の時代になることが予測されます。今まで以上にスピーディに対応することが必要とされ、その波に乗り遅れないよう努力を続けて、今後も変化し続けていくことが求められていくと思われます。

特集 1

民医連の循環器医師として

城北病院

城北病院 循環器医 横山加奈子



2018年4月から2019年7月まで甲府共立病院で循環器研修に行かせていただき、8月より再び城北病院、城北診療所で勤務となりました、横山加奈子です。

さて、私は2013年4月から初期研修医として城北病院に就職し、社会活動を行う目的で民医連医師になったと思っていました。当たり前のことですが、研修医の間は一端の医師として診療を行うということの難しさを痛感するばかりで、それができてこそその社会活動であり、それができてこそその民医連医師なのだと思われ日々でした。

それでもこの石川勤医協グループで温かく辛抱強く私を医師として成長させていただき、医師3年目の終わりに恐れ多くも循環器を志すまでに至りました。始めはた

だ単にカテーテルなどの手技が楽しく循環器に興味を持ったのですが、医師としての生き方に迷っていた私は、この科であれば医学と医療をつなぐことができ、医師としてこの社会の中でやりがいを持ってやっていけるかもしれないと考えるようになり、思い切って飛び込んでみることにしたのです。

やはり民医連医師であることにこだわりを持っていたので、研修先も民医連がいいと思って選ばせていただいたのが、当直も緊急カテーテル治療もバリバリこなす循環器の女性医師が二人もおられた山梨県甲府市にある甲府共立病院でした。

甲府共立病院は病床数283床(うち地ケア100床)と、城北病院より急性期病床が少し多いくらいの病院ですが、地域を支える輪番病院の一つで、当番日は救急車が1日20台となることもざらにあるような、城北病院よりはやや重症の患者さんが多い印象の病院です。

研修期間中にPCI(経皮的冠動脈インターベンション術)を100件達成し、学会発表を2件させていただき、CVIT(日本心血管インターベンション治療学会)認定医の取得条件を達成できました。手技や循環器医療の研修はもちろん、民医連循環器医師として患者さんの多様な生き方に他職種で関わることができ、人それぞれの「らしさ」を認め合う、探り続けるということが生死に携わる医療現場では不可欠であるということを感じ、経験させていただきました。

これからまたこの北陸の地でそういった一人一人の人生と向き合えるような循環器医療を追求させていただければと考えております。地域でより豊かな医療、介護が展開するための一助となればと思います。これからもどうぞよろしくお願ひ致します。

特集 2

城北病院 HCU紹介 (High Care Unit)

城北病院では、2019年8月より西1階 救急外来の隣にある10床の西1病棟をHCU (High Care Unit) として、①重症管理が必要 ②重症に移行するリスクが高い ③手術後など一般病棟の体制では、観察やケアが難しい方 ④緊急入院 などを受け入れています。

患者5名に対し、看護師1名以上の配置基準となっており、当院では16名の看護師を配置しています。

環境はオープンフロアに8床・個室2床があり、呼吸・循環・代謝など重度の急性臓器障害を呈し、厳密な呼吸・循環・感染管理などの専門的治療や看護の提供に取り組んでいます。

不安定な病状を速やかに観察し、病状や環境の変化で起こる、不安や混乱などにも向き合いながら対応をしています。

具体的に当院では、人工呼吸器による治療が必要な場合や手術後の合併症リスクが高い時期をHCUで過ごしていただくことで利用していただいています。

開設から数か月ですが患者さんの早期回復に向けたケアや、患者さんの変化に早期に気づくことができる能力(知識・技術・観察力・感性)の向上に向けて、研鑽を続けていきたいと思っています。そして患者さんの細やかなサインを見逃さず、一日でも早い回復を支援できるよう多職種のチームで取り組んでいきたいと思ひます。

